Health ADVICE

くらて病院スタッフからの健康アドバイスです

古賀麻酔科診療部長の

調子はいかが？

くらて病院☎（42）1231

麻酔科医に聞く Q&A

くらて病院では、今年の4月から麻酔科Dr.（麻酔科医）が一人、常勤で働いています。麻酔科医は、手術中の痛みをとる専門家です。

麻酔には、全身麻酔、背中からの麻酔（硬膜外麻酔、腰椎麻酔など）、神経ブロック（上肢や下肢の神経に麻酔のお薬を注射して痛みを和らげる方法）などがあります。麻酔科医はその得意分野を生かしてペインクリニック外来を開くこともできます。

ペインクリニックとは何ですか？

いろいろな痛みで苦しんでいる患者さんをみる外来のことです。痛みの原因を調べ、それに合った治療を提案します。治療の方法としては、お薬だけでなく、神経ブロックなどもあり、それらを組み合わせることで痛みを和らげ、日常生活をしやすくすることを目標にしています。

ペインクリニックではどんな病気をみてくれますか？

腰や下肢の痛みをともなう椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、圧迫骨折から、三叉神経痛（頬や顎の痛み）、帯状疱疹の痛み、頭痛、首や肩の痛み、がんの痛みなど、全身にわたる痛みをみます。お薬や神経ブロックなどで痛みを和らげる治療を行ったり、適切な診療科を紹介したりすることができます。

帯状疱疹後神経痛とは何ですか？

日本人成人の90％以上の人に、帯状疱疹の原因となるウイルス（水痘・帯状疱疹ウイルス）が、いわゆる『水ぼうそう』が治ったあとも体内に潜み続け、加齢とともに免疫が低下してきた頃に帯状疱疹を発症することがあります。

最近、「50歳を過ぎたら帯状疱疹の予防接種を受けたほうがいい」とよく耳にするかと思います。もしも帯状疱疹にかかった場合、抗ウイルス薬などによる治療を行っても痛みだけが後遺症として残ることがあります。この痛みを帯状疱疹後神経痛と言います。

帯状疱疹後神経痛は放置しておくと一生治りません。日々、痛みを抱えながら生活することになります。世間で帯状疱疹ワクチン（予防接種）が勧められているのはそのためです。

帯状疱疹後神経痛にならないためにはどうしたらよいですか？

帯状疱疹かなと思ったら、まずは皮膚科を受診してみてください。抗ウイルス薬や外用薬などで早めに治療すれば、帯状疱疹後神経痛に移行する可能性は低くなります。夜間、眠れないほどに帯状疱疹の痛みが強い場合、皮膚科の治療とあわせてペインクリニックで神経ブロックを行うと痛みで苦しむ期間も短くて済みますし、帯状疱疹後神経痛に移行する可能性もさらに低くなります。

くらて病院では、皮膚科の先生と一緒に治療を並行して進めることができます。

古賀 和徳　こが かずのり　　プロフィール

1987年産業医科大学を卒業後、麻酔科学教室に入局。大学病院、済生会八幡総合病院、九州厚生年金病院（現JCHO九州病院）で麻酔修練を重ねた後、英国ウェールズ大学病院で臨床麻酔と臨床研究に携わりました。帰国後は大学で後輩の指導、およびペインクリニックを中心に研鑽を重ねた後、医療安全部門で10年間、様々な医療事故の再発防止や医療の質向上に注力してきました。この度、縁があって本年4月から麻酔科常勤医として勤務しています。高齢化に伴い、呼吸器系、循環器系などに基礎疾患を持つ患者さんが増える中で、より安全な周術期管理に務めています。また、長年培ったペインクリニック診療の経験を生かし、ペインクリニック外来では痛みで苦しむ患者さんに寄り添った最良の治療をともに考えていきます。よろしくお願いします。ところで、私事で恐縮ですが、還暦を前に何か新たなことにチャレンジしようと思い、フルコンタクト空手を始めて早2年が経とうとしています。さすがに還暦を過ぎると身体の自由が利かずに思い通りに動けていませんが、黒帯を目指して日々精進しているところです。